

家畜衛生だより 令和元年11月号

紀北家畜保健衛生所	電話	073-462-0500
紀南家畜保健衛生所	電話	0739-47-0974
紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所	電話	0735-58-1481

【今あげている飼料で正解ですか？】

第一胃の微生物が作る栄養で大きな体を維持している牛にとって、少しの栄養バランスの崩れが、体全体のバランスの崩れに繋がります。栄養の過不足で牛がどのような状態になるかを知って、飼養管理への意識を高めましょう。

◎乾物量の不足

乾物量とは飼料の「かさ」のことで、飼料の重さから水分の重さを引いたものです。

他の栄養が足りていても、乾物量が不足していると牛は物足りなさから舌遊びをするほか、「空腹ストレス」を感じます。

ストレスを感じると肝臓に負担がかかり、ホルモンバランスが崩れ繁殖成績が低下してしまいます。

しっかりと粗飼料を給与し、牛を満腹にするよう心がけましょう。

◎タンパク質の過不足

タンパク質は豆、ふすまなど濃厚飼料に多く含まれています。

これが多すぎると第一胃でアンモニアがたくさん発生してアルカリ性となり、微生物がうまく働かなくなります。これにより、十分に飼料をあげているつもりでも、微生物からエネルギーが作られていない状態になり、栄養分が不足してしまいます。

また、アンモニアは毒ですので、肝臓に大きな負担がかかります。

逆にタンパク質が少ないと筋肉が作られず、第一胃も酸性になりバランスを崩すので、よくありません。

◎非繊維性炭水化物の過不足

発酵しやすい炭水化物で、主にデンプンです。

胃で発酵して酸性となるため、タンパク質とバランスよくあげることで胃が中性になり、微生物がうまく働くようになります。

非繊維性炭水化物が多すぎると牛が太りやすくなり、少ないと第一胃がアルカリ性になってしまいます。

◎太っている、やせている

どちらもよくありません。過剰なエネルギーを脂肪にするのは肝臓ですので、太っていると肝臓に負担がかかります。また、やせていると受胎しづらくなります。

以上のような飼料のバランスを充足しているかは、それぞれの飼料の栄養成分を見て計算することができます。粗飼料などの成分表は中央畜産会が発行している「日本飼養標準」に載っており、簡単に飼料設計が診断できるプログラムも添付されています。

是非、これを機に飼料設計を見直してみてください。



気になることや不明な点がありましたら、
所轄の家畜保健衛生所にお問い合わせください。

